

令和4年度 第1回 社会教育委員の会議 会議要旨

日 時：令和4年6月27日（月）15：00～

場 所：生涯学習総合センター 多目的ホール

出席者 委員10名、事務局8名

1. 開 会

2. 挨拶 教育長

3. 委員自己紹介

4. 議 題

「人口減少社会における社会教育の役割について」

事務局より人口減少の現状と第9期中央教育審議会答申について、資料に基づき説明があり、人口減少が社会教育に与える影響や課題について、各委員よりご意見をいただいた。

○委員からの主な意見

- ・定年後あるいは再雇用後やリタイヤ後に楽しみとか生きがいがあって、なおかつ必要な趣味ができるという社会にしていかななくてはだめだと思う。それを教える、身に付ける場が社会教育ではないかと思う。そういった方向から何か検討できないか。
- ・高齢化が進むことによって元気で活動できる高齢者も増えてくるので、高齢者に対する社会教育について、充実させていく必要がある。
- ・人口減少は問題でマイナス的であるというイメージがあるが、そういう捉え方だけではなく、一人一人に細かく手厚く色んなサポートできるという側面もあるのではないか。一定の人口規模がなければならないと思うが、どんどん増え続けていくことを、本当に求めていくべきなのか。
- ・出生率を上げて行こう、未婚率を下げた行こう、人口を増やして行こうということも大事だが、人口が少ないなら少ないなりに何ができるかという視点も必要。現状でできることを考えていかなければならない。
- ・市としてどういう場を提供して、どういう社会教育を受けさせたいのか、というような社会教育の教育観という部分が根本的に必要である。
- ・高齢者に限らず、若い人も、どんどん地域や社会に繋がっていくようなことが、これからは大事になってくると思う。
- ・子どもたちにとって興味があったり、高齢者の方に興味があるような施策を社会教育の中につなげていって、認知度をもっと上げていくようにすれば、利用者もメリット・デメリットを考慮した上で、利用することが多くなると思う。利用される方が多くなればなるほど、必ず有意義な点が見えてくる
- ・子どもを中心にすると、大人やお年寄りが集まってきて、地域のコミュニティに繋がるが、町内会のコミュニティの衰退と、子ども会が今ちょっと寂しいというのを感じている。

- ・人口減少の社会が到来しているが、地域で育てた子どもたちを何とかこの地に戻ってきて貰って社会を支える担い手になってもらえるという可能性はあるので、自治体が積極的に若者が参加できるような仕組みづくりをしていくことが必要ではないか。
- ・高校の中でやってきたことが、実社会や大学にどうやって定着させていくのかという課題がある。また、社会教育とはどういうことかということももう一回確認していかなければならない。

今回の意見を踏まえ、課題を整理し、次回の会議ではそれに対してどのように社会教育を進めていくかについて検討することとなった。

5. その他

特になし

以上